

沖縄県こども計画（仮称） 策定に係る県民アンケート

（若者・保護者）

2024年11月
沖縄県こども未来部こども若者政策課

調査の概要

調査の目的

県こども計画（仮称）の策定にあたり、計画の対象となるこども・若者及び保護者の意見をこども計画へ反映させるための取組として、県民アンケートを実施しました。

実施期間

令和6年7月30日～令和6年8月31日

回答者数

4725件（若者：726件、保護者：3978件）

※年齢区分別の集計は、18～29歳でお子さんがいないと回答した方を「若者」、お子さんがいると回答した方を「保護者」としています。お子さんがいるかどうかについて「答えたくない」と回答した方は、世代別では集計に入れておりません。

調査方法

調査は、WEB調査にて実施しました。アンケートの周知にあたっては、沖縄県のHP等での広報や、関係団体への協力依頼などを行いました。

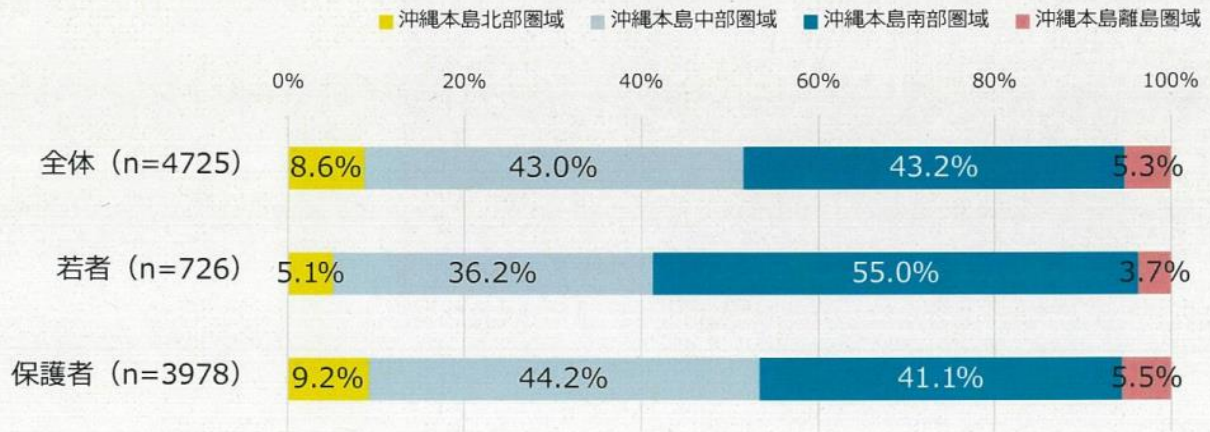
※県立学校日本語支援事業による保護者からの意見を問10へ追加しました。

調査対象者

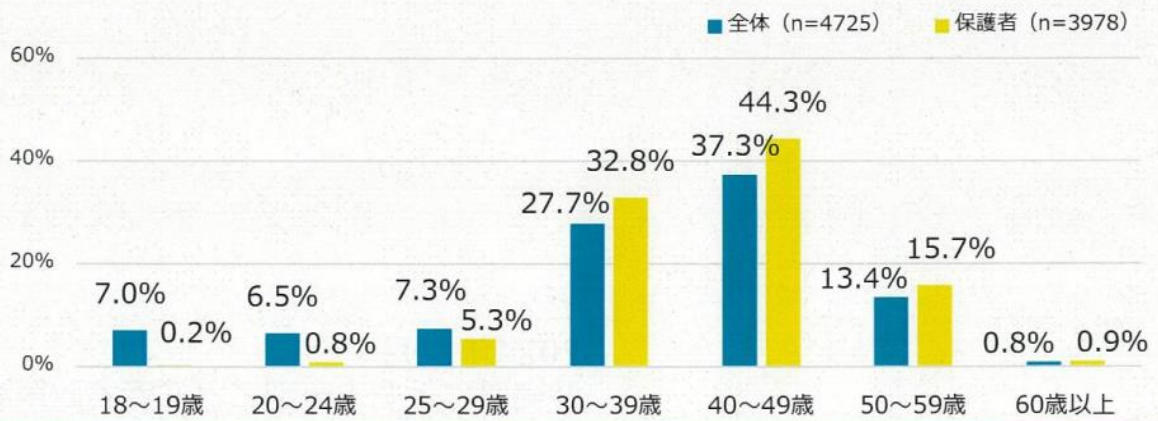
沖縄県に住む18歳以上29歳以下の若者及び0～17歳のこどもを持つ保護者



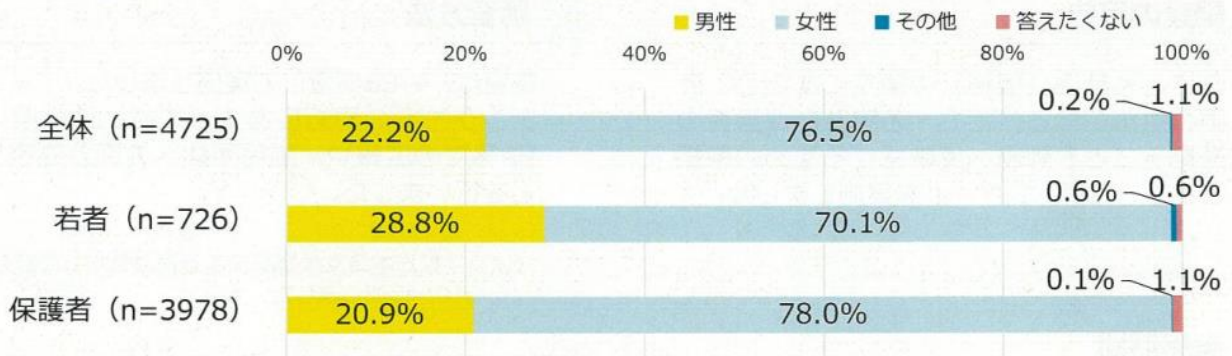
問1 あなたの住んでいる圏域を教えてください



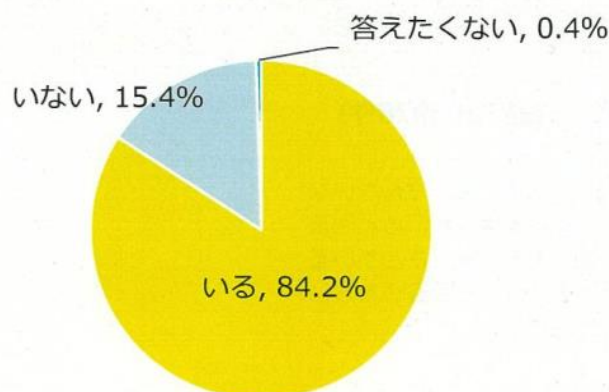
問2 あなたの年齢を教えてください



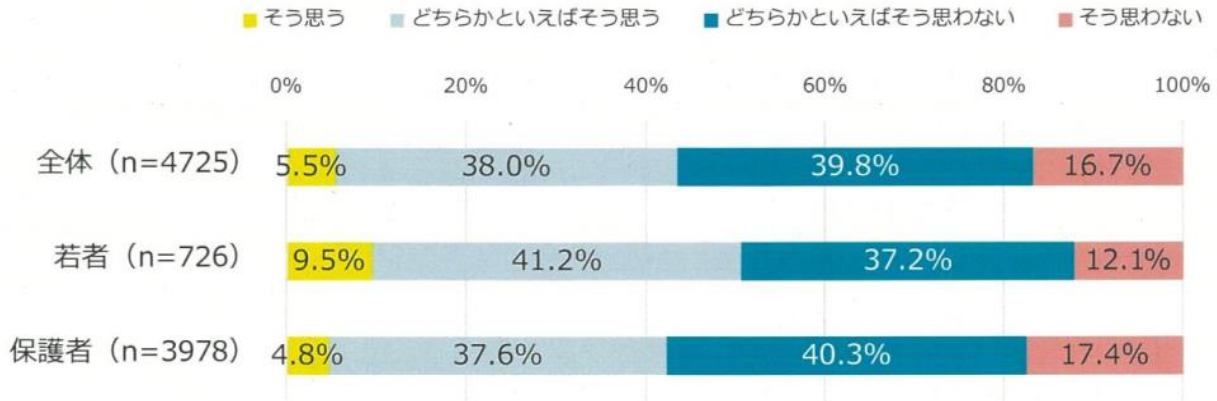
問3 あなたの性別を教えてください



問4 あなたにお子さんはいますか (n=4725)

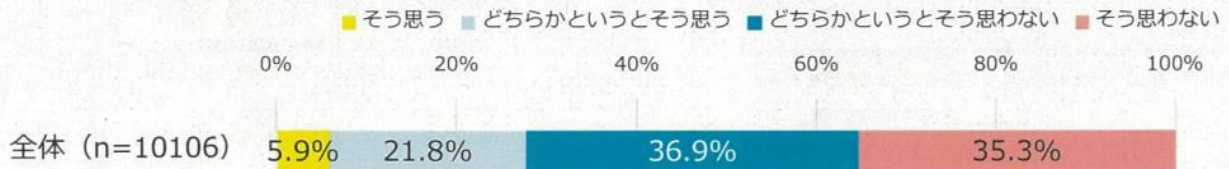


問6 あなたは沖縄の社会が「結婚、妊娠、こども、子育てに温かい社会の実現に向かっている」と思いますか

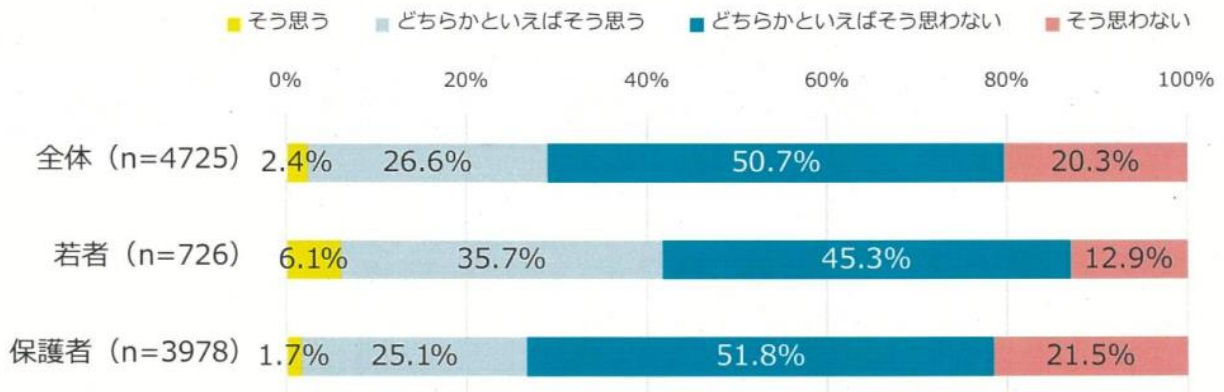


【参考】あなたは日本の社会が、結婚、妊娠、こども、子育てに温かい社会の実現に向かっていると考えますか (n=10106)
(こども家庭庁 (2023年)「令和5年度 こども政策の推進に関する意識調査 報告書」)

※16~49歳の未婚及び既婚の男女を調査対象としている

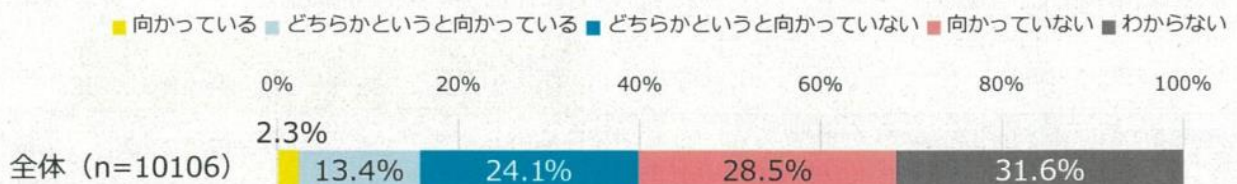


問7 あなたは沖縄の社会が「こどもまんなか社会の実現に向かっている」と思いますか

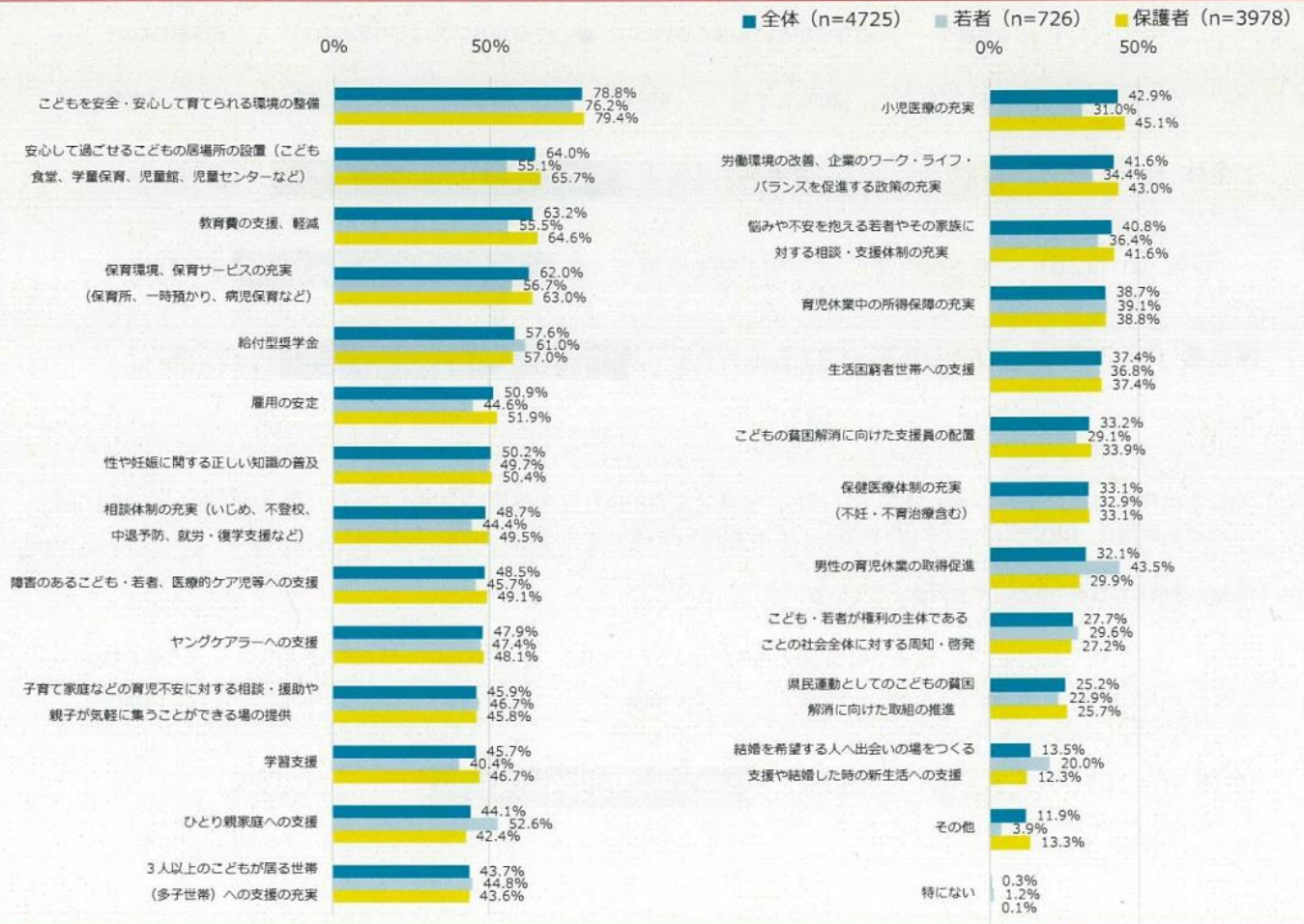


【参考】あなたは、今の社会は「こどもまんなか社会」の実現に向かっていると考えますか (n=10106)
(こども家庭庁 (2023年)「令和5年度 こども政策の推進に関する意識調査 報告書」)

※16~49歳の未婚及び既婚の男女を調査対象としている



問8 あなたは沖縄県が目指す「誰一人取り残さない子どもまななか社会」を実現するための施策として何が重要だと考えますか（複数選択）



問9 問8で選択した中から、とくに重要だと考えるものを3つまで選んでください（複数選択）

年齢区分別TOP 10

★TOP5までは、順位に違いはあるものの、項目は同じ。
若者の6、9位は保護者になく、保護者の6、8位は若者がない。

順位	項目	若者 (n=726)	項目	保護者 (n=3978)
1	子どもを安全・安心して育てられる環境の整備	76.2%	子どもを安全・安心して育てられる環境の整備	79.4%
2	給付型奨学金	61.0%	安心して過ごせる子どもの居場所の設置（子ども食堂、学童保育、児童館、児童センターなど）	65.7%
3	保育環境、保育サービスの充実（保育所、一時預かり、病児保育など）	56.7%	教育費の支援、軽減	64.6%
4	教育費の支援、軽減	55.5%	保育環境、保育サービスの充実（保育所、一時預かり、病児保育など）	63.0%
5	安心して過ごせる子どもの居場所の設置（子ども食堂、学童保育、児童館、児童センターなど）	55.1%	給付型奨学金	57.0%
6	ひとり親家庭への支援	52.6%	雇用の安定	51.9%
7	性や妊娠に関する正しい知識の普及	49.7%	性や妊娠に関する正しい知識の普及	50.4%
8	ヤングケアラーへの支援	47.4%	相談体制の充実（いじめ、不登校、中退予防、就労・復学支援など）	49.5%
9	子育て家庭などの育児不安に対する相談・援助や親子が気軽に集うことができる場の提供	46.7%	障害のある子ども・若者、医療的ケア児等への支援	49.1%
10	障害のある子ども・若者、医療的ケア児等への支援	45.7%	ヤングケアラーへの支援	48.1%

問10 あなたが考える、沖縄県の子ども達が生き生きと暮らせる「誰一人取り残さない子どもまんなか社会」を実現するために必要なことについて、自由にご意見をお書きください

一部抜粋（全回答数 2581件）

.....
子どもの権利や誰一人取り残さない子どもまんなか社会などについて

- 子ども達が何に困っていて、何が足りていないのか、子ども達と一緒に考えて支援していける社会にしていきたい（若者）
- 「子どもたちの声を聞く」場や機会をきちんと設けて、その声を行政に活かす取組を持続していくことが必要（保護者）

.....
保護者支援について

- 子ども達がいきいきと暮らすために、子どもの保護者に対する支援も充実させる必要がある。同様のアンケートは様々な形で取られていると思うが、その結果がどの取組みに活かされているのか、県民が広く分かるようにしてほしい。（保護者）
- 子どもに対する対症療法的な施策ではなく、親の状態を含めて沖縄県の抜本的な改革をしていかないと「子どもまんなか社会」の実現できないと思う。その視点からソーシャルワーカー等の充実は、比較的すぐにできる施策ではないか。（若者）

.....
社会全体に対する周知・啓発など

- 「子どもまんなか社会」とはどんな社会か知らなかった。具体的な意味を含めて広く周知して欲しい。（保護者）

問10 あなたが考える、沖縄県の子ども達が生き生きと暮らせる「誰一人取り残さない子どもまんなか社会」を実現するために必要なことについて、自由にご意見をお書きください

一部抜粋（全回答数 2581件）

.....
子どもを安全・安心して育てられる環境の整備

- 日中、暑すぎて外の遊具で遊ぶことが難しいので室内遊具等遊べるところが欲しい。（保護者）
- 全国的に子どもが減り、社会全体が大人のためのものになっていて、子どもが社会の中で迷惑な存在になってきて、子育てに向かない社会に向かっている。子どもを迷惑と思わない、思わせない社会作りをすることで、子育てしやすくなると思う。（保護者）

.....
障がいのある子ども・若者、医療的ケア児当への支援

- 自閉症の子どもの保護者です。保育園までは、1人に1人ずつ補助の先生がいたが、小学校からはそれがありません。普通の子と障害がある子が一緒に学ぶ場がある事でお互いの成長に繋がっています。普通の小学校と特別支援学校のように障害者を切り離すのではなく、学校を併設する、補助の先生を増やして普通学校でもっと障害がある子を受け入れるなど、普通の子たちとももっと交流できる場を設けて欲しい。（保護者）
- 子どもに障害があるため就労先を見つけるのが難しい。また、親のどちらかは子どもの介護をしなければならず、デイサービスなど利用しても時間の制約がある。障害のある人もない人も安心して暮らせる社会になってほしい。（保護者）

.....
保育環境、保育サービスの充実

- 保育園探し、学童保育など子どもの預け先を探すのに苦労しました。小学校低学年までは無条件で受け入れられるよう、子育てしやすい環境を行政が積極的に作ってください。（保護者）
- 夜間や遅い時間帯まで働く保護者が子どもを一人っきりにしないように、夜間保育を実施する保育所や子どもを一時的に預かる場所を設置するほうがよい。（若者）
- 子育ての為に収入が必要で、働く保障の為に保育園の整備は喫緊の課題。保育士の所得向上や、労働環境の整備を早急をお願いしたい。（保護者）

問10 あなたが考える、沖縄県の子ども達が生き生きと暮らせる「誰一人取り残さない子どもまななか社会」を実現するために必要なことについて、自由にご意見をお書きください

一部抜粋（全回答数 2581件）

保険医療体制の充実／小児医療の充実

- 不妊治療が一部保険適用になったが、まだまだ不十分。（保護者）
- 現在の小児医療の状況は非常に悪い。かかりつけ医の小児科病院は、事前予約や当日予約など早いもの勝ちでしか受診出来ず、救急診療では長時間の待ち時間の後、簡素的な診察しか受けられず「調子が悪ければ、日中かかりつけ医を受診してください」となる。このような「小児科迷子状態」に悩みを抱く保護者は少ないと思う。（保護者）

安心して過ごせるこどもの居場所の設置

- 児童館のない地域もたくさんあるので、昔のように放課後の学校がこどもの居場所となってほしい。管理責任の問題もあると聞くと、教育よりも福祉の視点で受け入れてほしい。（保護者）
- 子どもだけでなく、保護者が集える居場所作りも必要。生活困窮者や子育てに困っている潜在的な親子もファミリーサポートや行政、児童相談所も一緒に情報共有して全体で見守る取組が必要。（保護者）

学習支援

- 所得格差による、学びの格差がないように無料学習塾の取組を自治体などで行ってほしい。（保護者）
- 実習室などの勉強出来るスペースを増やして欲しい。兄弟が多い家庭や自宅で学習に適した環境が持てない学生の多くに必要とされていると思う。（若者）

問10 あなたが考える、沖縄県の子ども達が生き生きと暮らせる「誰一人取り残さない子どもまななか社会」を実現するために必要なことについて、自由にご意見をお書きください

一部抜粋（全回答数 2581件）

奨学金／教育費の支援・軽減

- 給付型でも貸与型でも、奨学金がもっと広く活用できるようになってほしい。（若者）
- 進学のための支援策として、給付型奨学金等があることを中学生など早い時期から周知し、子ども達が進路を諦めないようにしてほしい。（保護者）
- 就学援助の範囲の拡大。（保護者）
- 給食費や必要な物の無償化や軽減など現物支給をして欲しい。多子家庭でも、保育園などの減額や無償は上の子と下の子の年齢が離れると対象にならない事も多く、そういった状況も含めて検討して欲しい。（保護者）

教員の処遇改善

- 学校が安心安全で行きたい場所になるため、教職員が個々に寄り添えるよう十分な人を配置する必要がある。小中高30人学級にして、生徒理解ができる環境を作って欲しい。（保護者）

不登校／フリースクール

- 群星寮は、公立高校だけでなく、通信制高校に通う生徒も利用できるよう改善して欲しい。（保護者）
- こどもの不登校支援は居場所まで車での移動が必要で、保護者の対応が不可欠となっており、仕事を休んで登下校や付き添いをせざるを得ず保護者の負担が大きい。（保護者）
- 公立学校だけでなく、フリースクールの学費も支援して欲しい。公立学校以外の場所で自分の輝ける場所を見つけられる事は、誰一人取り残さない事につながると思うが、実際はフリースクールは親の負担が大きすぎて選択肢をあげられずにひきこもりになる事は少なくないと思う。（保護者）

問10 あなたが考える、沖縄県の子ども達が生き生きと暮らせる「誰一人取り残さない子どもまんなか社会」を実現するために必要なことについて、自由にご意見をお書きください

一部抜粋（全回答数 2581件）

労働

- 親の雇用安定が必要不可欠、正規雇用を増やしていただきたい。教育現場も正規雇用を増やして、担任の複数配置等、教育の充実を実現していただきたい。（保護者）
- 労働者の労働環境を整えて、男女共に育児休業を取得しやすい環境にすること、労働時間を調整、リモートワークを導入、時間休など、柔軟な働き方ができると育児がしやすくなると思います。（保護者）
- 育児休業中の手当が少なく、子どもが2人以上いると節約優先となり、遊びに連れて行くことも食に関しても、貧しい思いをさせている。育児休業中は扶養手当も無く、子どもを産む人数分、貧困さが増すような状況。子育て給付金の配布や市内在住限定で無料で遊べる室内施設があると助かる。（保護者）

収入

- 沖縄県民の所得向上が必要。子どもにはいろんな経験や体験などをさせてあげたいが、経済的問題で諦めてしまう。（保護者）
- 物価が高いのに給与が少ないのをどうにかして欲しい。（保護者）

問10 あなたが考える、沖縄県の子ども達が生き生きと暮らせる「誰一人取り残さない子どもまんなか社会」を実現するために必要なことについて、自由にご意見をお書きください

一部抜粋（全回答数 2581件）

支援

育児不安に対する相談・援助や気軽に集うことができる場の提供

- 産後うつのお母さんのフォローとケアをしてほしい。家族だけでなく、地域の助けも借りたい。（保護者）
- 産前から、子育て支援センターなどの活用や周知を徹底して欲しい。産後はとてもツライ時期があり、役所に子育て支援の居場所がないか問い合わせたが、詳しい回答が得られず悲しかった。その後、子育て支援センターの存在を知り、利用することで安心することができた。（保護者）

いじめや不登校等、様々な悩みや不安を抱える若者や家族に対する相談・支援体制の充実

- 子どもが不登校になり、メンタルもひどくなり、色々なところへ相談したりカウンセリングが受けられるところを探したりしたが、どこも予約がいっぱいで気軽に相談できなかった。18歳の今も引きこもりで、取り残された感じがする。親も精神的にいっぱい입니다。気軽に相談できる場所がほしかった。（保護者）
- 子どもが不登校の時期があり、支援等を受けるにも、診断書をもらい役所へ申請するまでは無料ではなく、有料で学校以外の場所を探した。申請が下りるにも何をすることも時間と手間がかかり過ぎる。保護者側の負担軽減が子育てに直に繋がるので、もう少し柔軟な対応を各所でできたら良いと思う（保護者）

支援体制

- 子どもの居場所支援は助成金頼みで資金が足りない、継続が大変と聞きます。子ども支援の予算が不安なく支援団体が継続して活動できるよう、予算が十分に確保されると良い。（保護者）
- 勇気をだして相談に来た人を必ず支援に繋げるよう、相談窓口の人員を十分に配置して欲しい。（保護者）
- 子どもを取り残さないために、まずは保護者を取り残さないこと。保護者が相談しやすい環境づくり、通いやすい支援施設の設置、生活保護などの適用基準を検討することが必要だと思う。（若者）

問10 あなたが考える、沖縄県の子ども達が生き生きと暮らせる「誰一人取り残さない子どもまんなか社会」を実現するために必要なことについて、自由にご意見をお書きください

一部抜粋（全回答数 2581件）

支援

周知

- 子ども達のために具体的にどのような支援を行っているか、県民にわかるように周知してほしい。（保護者）

住まい

- シングルになった家庭の新生活スタート支援（同じ学区内の団地への入居、生活家電の取得支援など）がたくさんあれば良いと思う。（保護者）
- 沖縄県は家賃価格が上がっているが、給料が安定していない。まずは家賃補助等の生活基盤の援助を行い、子ども達の生活環境から整えていくのも良いと思う。（保護者）

多子世帯

- 共働きである程度の世帯収入はあるが、子どもは多胎児で育児や進学の家計負担が同時に2倍のしかかっており、決して生活にゆとりはない。中間所得層の世帯は、経済的支援はほぼ受けられずにいる。さまざまな家庭に対して、平等に恩恵が受けられるよう、特に子どもの学費に関しては所得制限を撤廃して支援できれば良いと思う。（例：小、中、高の制服や高校の教科書の無償化など）（保護者）

ひとり親

- 2人の子を育てるシングルマザーです。収入による制限で児童扶養手当の適応はないが、子育てへの出費は共働きの家庭と変わらず、またひとり親だからこその出費もある。児童扶養手当だけでなく子ども手当も、制度の再検討をしていただきたい。（保護者）
- 離婚後、養育費を払わない相手への請求や口座の差し押さえを行うなど、現状を変えて欲しい。（保護者）

性や妊娠に関する正しい知識の普及

- 望まない妊娠を避けるための性教育の充実や、子どもを社会全体で育てる体制が必要。（若者）

問10 あなたが考える、沖縄県の子ども達が生き生きと暮らせる「誰一人取り残さない子どもまんなか社会」を実現するために必要なことについて、自由にご意見をお書きください

一部抜粋（全回答数 2581件）

支援

貧困

- 「経済格差」が子どもの「学習格差」や「経験格差」に繋がっている。経済的格差があっても、学習や経験はしっかりと提供できる、そんな社会の仕組みが必要。（保護者）
- 貧困の連鎖を止めることは個人では難しい。現金給付や減税を行い、必要なサービス（家事代行、教育にかかる費用の無償化など）が誰でも受けられるような社会を行政が主となって構築するべき。（保護者）

経済的支援

- 就学援助や給付金奨学金なども、保護世帯や非課税世帯、多子世帯のみではなく、全ての子どもが対象となるよう充実を図って欲しい。（保護者）
- 非課税世帯や生活窮困者だけではなく、中間層もとても苦しい状況です。貧困から抜け出したい一心でひとり親で昼夜ダブルワークで働き、所得は上がりましたが非課税でなくなったことで、支援対象からも外れました。児童扶養手当も減額になり、非課税の時と同じくらい苦しい生活をしています。所得だけで判断せず、本当に困ってる人、頑張っている人の支援もして欲しい。（保護者）

外国ルーツの子ども達やその家族への支援

- 日本語の読み書きを練習させて欲しい。本人が理解しやすいように、難しい文章をかみ砕いた日本語に直して説明して欲しい。（保護者）
- 日本語だけでなく、一緒に日本の文化や習慣も教えて欲しい。（保護者）
- 小学5年生の弟の方がより日本語支援を必要としているが、学校が動いてくれない。（保護者）
- 日本語が出来ないため、パートナーからのDV関係などを相談する機関やケア出来る人が居ない。（保護者）

問10 あなたが考える、沖縄県のこども達が生き生きと暮らせる「誰一人取り残さないこどもまんなか社会」を実現するために必要なことについて、自由にご意見をお書きください

一部抜粋 (全回答数 2581件)

政治・経済

- あらゆるプランニングや政策決定の場へ、女性や障がい者など多様な人の参画を進めること。(若者)
- 今まで、必要だと思う事に色々な人が声を上げてきたはずだが、それを拾えない県に意見を言っても何も変わらないと思う。本当に変えたいのなら、政治、政治家から変えなければ何も変わらない。(保護者)
- 無料の遊び場や、児童館、給食費援助など、もっとこども達の為に予算を使ってほしい。(保護者)
- もっと日本全体の経済状況が良くなり、大人達がこどもと向き合える時間が増えたらこども達も生き生き過ごせるのではないかと思う。今は共働きで必死に働いて子育てしている印象。(保護者)
- 安定した雇用も大事ですが、所得を上げるための努力と工夫を、行政、企業、個人がこれまで以上に行うこと。そして、未来を担う子どもたちには平等に質の高い教育を受けられる環境を整備することが大事だと思う。所得や体験格差が広がり過ぎてる。(保護者)

問11 「誰一人取り残さないこどもまんなか社会」を実現するために、あなた自身ができることについて自由にご意見をお書きください

一部抜粋 (全回答数 2202件)

地域との関わり

こどもとの関わり

- 身近にいる娘の友人、知人に、居場所を提供するなど出来る限りの支援を心がけています。(保護者)

声かけ

- 普段生活している中で、気になる子に声をかけたり、困っている様子の保護者にも声をかけるなど、直接的な交流を大切にしていきたいです。社会的に支援体制の充実を図るとともに、個人単位での困り感や辛さの軽減を図ることが大切だと思っています。(保護者)

行事・活動等

- こども会に積極的に参加、寄付し、子どもたちが来なくなるイベントを無料で企画開催しています。地域の子供会にも援助があると嬉しいです。(保護者)
- 不登校の親の会運営しています。ママたちの笑顔が家庭を明るく前向きにしていると思っています。まず、ママのサポートそれから子ども、または同時にできるように子ども第三の居場所で活動していきます。(保護者)

関わり

- 自分の周りの人を褒め、無力ではないことを伝えていく。一人ひとりの自己肯定感が上がれば、少しずつ、プラスに動く要因になると思う。(若者)
- 私は団地に住んでおり周りに助けが必要と思う子は多い。団地の管理人をしてこどもの話が入ってきやすい状況を作っている。今できる事は同じ立場にしながら乗り越えた経験を伝えていくこと。毎日の会話で絆をつくりながら悩んでいる事を解決していけるようにしていく！(保護者)

問11 「誰一人取り残さないこどもまんなか社会」を実現するために、あなた自身ができることについて自由にご意見をお書きください

一部抜粋（全回答数 2202件）

社会参加

意見表明

- 学童支援員をしているが、利用料を払えなくて学童に通えない子がとても多い。ひとり親、非課税世帯の利用料減免措置はあるが、更に貧困の世帯の子は放課後～夕方の誰もいなくなる時間まで学校で過ごすこどもがいるのが現状（保護者）

アンケートで意見表明

- アンケートに答えたり、何か問題があった際は、どうあれば良いかを考えること。このようなアンケートで意見を言える機会を作り、みんなの意見をちゃんと聞いて欲しいです。（保護者）

選挙に行く

- 今の段階で私ができる行動は「然るべき政党・人物への投票」しか思い浮かびません。（若者）
- 子どもに対する政策をきちんと公約に掲げて実践してくれる方を選挙で選ぶこと。現場の声を聞いて本当に必要な所に公費を使っていただけの方を見極めること。（保護者）

納税

- 必死に納税し世の中にお金がまわるよう死ぬまで働き続けることです。その税で子ども達の将来が少しでも負担減になれば嬉しい。（保護者）

問11 「誰一人取り残さないこどもまんなか社会」を実現するために、あなた自身ができることについて自由にご意見をお書きください

一部抜粋（全回答数 2202件）

社会貢献

寄付・ボランティア

- 私自身もひとり親世帯で育ち、公立でも質の高い教育を受けられたことが貧困から抜け出せた要因の1つだと思う。英語が得意になったことで様々な学びの機会を得られたので、地域で英語を教えるボランティア等やってみたい。（若者）
- 仲間と年に一回、模合の中から未来チケットの購入やフードバンクへの支援などを行っています。（保護者）
- 地域活動での子供達の見守りやボランティア活動をできる範囲でしたいと考えているが、何処に連絡すればいいのか分からなかったり、その応募ハードルが高くて参加を躊躇してしまっている。もっと気軽に参加できるようになれば地域の人達も加わり易いのかなと思う。（保護者）

仕事を通して貢献

- 親世代の所得向上の為に雇用側として取り組んで行く。（保護者）
- 養護教諭として早期の性教育について取り組んでいる。教育者として、こども達の家庭を変えることは難しいが、私ができることを今後も続けていく。（保護者）
- 障害者に関わる仕事をしており、自分の子どもも障害児です。障害への偏見や差別意識が根強い地域なので、仕事の中で課題解消に取り組んでいます。（保護者）

仕事を通して貢献したい（若者）

- 将来保育士として、親子揃って安心して居心地が良いと感じてもらえる保育を提供したい。（若者）
- 教員になった時、こども達が安心して様々な体験、経験ができるよう、たくさん勉強したい。（若者）

生活・仕事

生活

- 自分を大切にすること。子どもを大切にするためには、まずは自分に余裕がないといけない。（保護者）
- 頑張って努力する大人の姿を子ども達に見せる事。（保護者）
- 将来自分の家庭を持った時、責任を持って子育てができるよう、結婚する人を慎重に選び、自分自身でも生活ができるよう経済的な準備も行う。実際、就職の時は、産休育休の取りやすさ、仕事復帰のしやすさを優先した。（若者）

仕事

- 労働環境改善のための業務効率化及び、突発的なお休みを取る同僚をフォローできる環境づくり。（保護者）
- 職場の8割が非正規雇用の状況で、私自身、20年かけて正規になった。まずは職場の非正規職員を無期転換可能とし、その後は無期雇用職員及びパートの正社員化を経営者に訴え続けている。すでに声を上げて3年経つが、無期転換すら実現出来ずにいる。（保護者）
- 子どもが大学への進学を希望するならその機会を与えてあげたいが、非正規社員で給料も上がらない、いっ首になるか不安と共に生活している。年齢を増しても安心して働ける環境になってほしい。（保護者）

家族

子育て

- 自身の子どもを社会で自立できるまで育てること。（保護者）
- 里親をさせて頂き5年目になる。子ども達が施設ではなく家庭の中で育つ経験はとても大切だと思う。子ども達が社会へ出たあと、悩んだ時や相談事がある時、実子と同様に受け皿になればと思います。（保護者）
- 私自身も子どもがいるが、日々の生活で余裕がなく、子どもと向き合えていない状態。まずは、私自身子どもと向き合う努力をしたい。（保護者）

家族

家計

- 我が子の希望を叶えられるように経済力をあげる事。しかし、子どもが多いと体調不良などで仕事を休む事も多く収入が安定しないことが現実。経済力をあげると言っても個人の努力ではどうにもならないので、そのためにも支援が必要。（保護者）

日々の暮らし

- 気持ちよく余裕を持って子育てできるように、苦しい時は周りに協力を求め、無理をしないこと。（保護者）
- 子どもが4人の多子世帯です。自分にできる事は子ども達の希望をかなえてあげるためにお金を稼ぐこと。しかし所得は上がりず物価や光熱費も増える一方で負担ばかりが増えている。生活を安定させるのでいっぱい現実です。（保護者）
- 子育て中のお母さんたちは、出来ることは、日々努力してやっていると。仕事と家事の両立はとても大変です。自分の体調を管理し、収入を上げるためにダブルワークをして自分の家庭を守る。まわりが見えてくるのは、余裕が出てからに過ぎません。政治に関わる方に、子どもの置かれている環境をリアルに見てもらいたい。（保護者）

精一杯

- ひとり親で、子どもと介護が必要な親との生活でいっぱい。自身の体調ケアをおろそかにすると生活が成り立たなくなる状況。それだけで精一杯なので、地域の子ども達のためにできないことが多い。（保護者）
- 自分の子どもが幸せに暮らせるようにすることで精一杯で、他の家庭の子どもの事を気にする余裕がありません。低賃金、長時間労働、物価高、色々理由はありますが本当に余裕が無い。大人に余裕があれば困っている子どもを助ける事ができるかもしれません。（保護者）
- できる事は自分の子どもを大切に育てる事で精一杯です。私と夫と共働きで正直、余裕はありません。むしろ、サポートが欲しいです。（保護者）

その他

意見

- 私ができることはすでに実行しています（挨拶をする、交通立哨をする、子どもたちに声をかける、学校等に入っの手伝い、保護者同士のつながりをつくる、保護者への声をかける等々）、行政ができることをぜひやって欲しい。行政に対しての要望のほすが、なぜ私ができることをここに書かないといけないのか不思議です。（保護者）
- まずは若者の声を聞くべき。もっと若者の声が聞こえるように工夫するべき。（若者）

難しい

- 子の居場所での見守りや、学校での放課後支援など、興味や関心はあるが、仕事をしていると協力できる時間を捻出できない。柔軟な働き方がもっと出来るようになるといいと思う。（保護者）

助けてほしい

- 社会とのつながりをもつ事。不妊治療に専念するために仕事を辞めたが、復職が難しい。子供の預け先もなく一時預かりにはお金が必要だし働けるほど預かってはくれない。結局は家にこもっていて貧困である。イライラから子供に手を出してしまう、助けて欲しい。（保護者）
- 仕事を正社員に戻ることだが、障がいと病気を持った子の通院を諦める必要があります。福祉の充実で解決に向かってほしいです。個人之力では難しいので助けて欲しい。（保護者）